

認知症サポーター アクティブチーム

活動事例集

<平成30年度(2018年度)認定分>



がんばるけん!

くまもとけん!

認知症サポーターアクティブチーム

活動事例集

目次

1	認知症サポーターアクティブチームとは	2
2	平成30年度（2018年度）認定状況	3
3	平成30年度（2018年度）認定団体の活動（事例集）	
1	Orange Project（熊本市）	4
2	くまんしょ福祉ネット（熊本市）	6
3	にじいろLabo（熊本市）	8
4	ともにオレンジサポート（熊本市）	10
5	Team 輪（熊本市）	12
6	FROM US（熊本市）	14
7	傾聴グループみなまた（水俣市）	16
8	あざれあ（水俣市）	18
9	天草市脳いきいきサポーターチーム（天草市）	20
10	あまくさ♡認知症を地域で支える会（天草市）	22
11	街なか図書館（宇城市）	24
12	認知症カフェみちくさ（菊陽町）	26
13	御船町介護予防・生活支援サポーター連絡協議会（御船町）	28
14	御船町認知症家族の会「すまいるクラブ」（御船町）	30

1 認知症サポーターアクティブチームとは

認知症サポーターの養成率が10年連続日本一(※)を誇る本県では、認知症サポーターの活動活性化を図るとともに、認知症サポーターが活躍しやすい環境づくりを進めるため、平成30年度(2018年度)から①認知症アクティブサポーターの養成、②認知症サポーターアクティブチームの認定を実施しております。

(※)平成30年度末(2018年度末)時点

(1) 認知症アクティブサポーターの養成

県内の市町村が実施する認知症に関するより深い知識や技術を習得するための実践研修(60分程度)を受けた方を、認知症の方やその家族を支える活動を積極的、能動的に行う“認知症アクティブサポーター”として市町村が名簿に登録、管理・活用。

《対象者》

- ア 認知症サポーター養成講座を受講した方
- イ 市町村が管理する修了者名簿への登録に同意できる方
- ウ 認知症の人やその家族への支援を積極的に行う意欲のある方



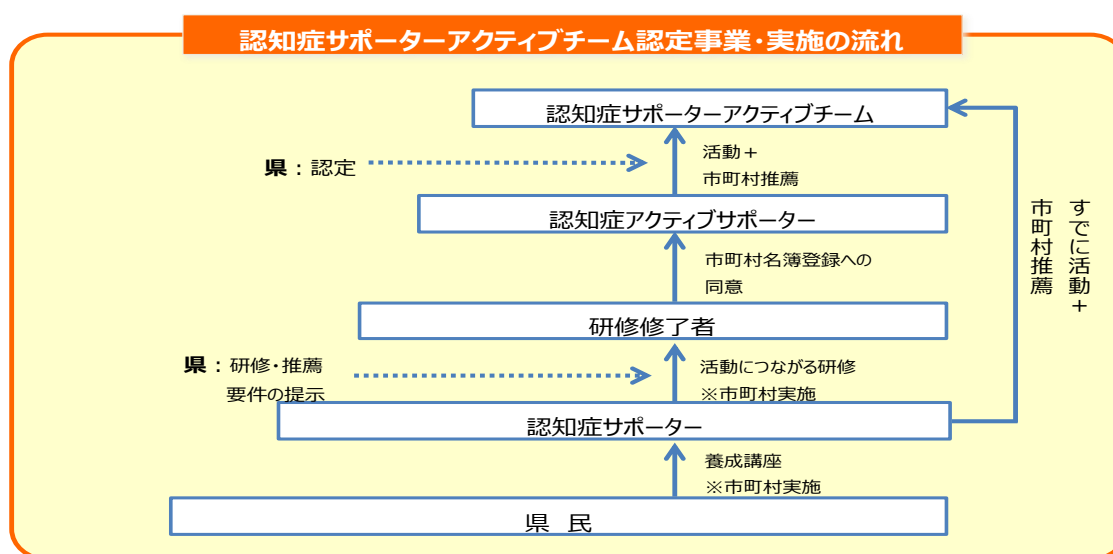
認知症アクティブサポーターと
なられた方には、オリジナル
ピンバッジを進呈!

(2) 認知症サポーターアクティブチームの認定

認知症の方やその家族を支える活動を積極的かつ能動的に行う団体を、市町村の推薦に基づき、県が“認知症サポーターアクティブチーム”として認定。認定した団体は、名簿に登録し管理するとともに、県内市町村に情報提供し活用。

《認定基準》

- ア 認知症の人やその家族への支援を積極的に行っている団体
- イ 市町村の求めに応じ、可能な範囲で認知症の人やその家族への支援活動を行うことができる団体
- ウ 市町村が実施する実践研修を修了した認知症サポーターが所属する団体



2 平成30年度（2018年度）認定状況

制度創設初年度の平成30年度（2018年度）においては、14団体を認知症サポーターアクティブチームとして認定し、認定証を交付しております。

	団体名	活動母体	主な活動内容
1	OrangeProject	熊大等看護学生ボランティア団体	サポーター養成、認知症カフェ運営等
2	くまんしょ福祉ネット	隈庄小学校PTAの保護者有志	ジュニアサポーター養成、交流会開催
3	にじいろLabo	介護老人保健施設職員	高齢者疑似体験会の開催、認知症カフェ運営
4	ともにカツサポート	地域住民、事業所職員	認知症カフェ、声掛け模擬訓練等
5	Team 輪(りん)	熊本地震をきっかけとした有志	趣味の講座、レクリエーション活動
6	FROM US	地域包括支援センターの有志職員	認知症カフェ運営、高齢者総合相談支援
7	傾聴グループみなまた	水俣市傾聴ボランティア団体	施設での傾聴活動、認知症フォーラム参加
8	あざれあ	水俣市	地域での見守り活動、日常生活相談対応
9	天草市脳いきいきST	地域住民	通いの場での認知症予防メニュー実践
10	あまくさ♡支える会	認知症ケアに関わる地域住民有志	認知症カフェ運営、独自の研修会の開催
11	街なか図書館	図書のある商店街を創ろう会の有志スタッフ	認知症カフェ運営
12	認知症ケアみちくさ	地域の有志ケアマネージャー	認知症カフェ運営
13	御船町ボランティア協議会	地域住民	介護予防教室への協力、地域での見守り活動
14	御船町すまいるクラブ	有志の介護当事者	認知症カフェ運営、専門的支援への繋ぎ



認定書交付式



認知症サポーターアクティブチームとして認定された団体には、認定証書とオリジナルネームストラップを進呈！

団体の概要

- ① 開始年 平成27年(2015年)
- ② 活動市町村 熊本市
- ③ 活動日時 随時
- ④ 構成人数 70人
- ⑤ 開催場所 熊本市内

団体の特徴

認知症サポーターになった大学生が大学・専門分野の枠を超え「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに貢献する」をコンセプトに活動するボランティア団体です。主に認知症の正しく知識に関する普及・啓発活動を行っています。

特に、認知症になっても安心して暮らせる持続可能な地域共生社会の実現のため、若年層への普及・啓発の必要性を感じているため、地域住民・行政と協働しながら、若年層を対象に認知症サポーター養成講座の企画・ファシリテートなどを行うなど、地域住民のニーズに合わせて活動を行っています。

団体結成の経緯(きっかけ)

発起人である女子大学生は、幼い頃から認知症の祖母がいるグループホームで遊び、認知症は特別なものではないと思っていました。しかし大学生活の中で、代表顧問である安武綾先生が行った認知症サポーター養成講座を受講し、社会的には認知症の方や病気に対して偏見や誤解があり、早朝に適切な治療や支援が受けにくくなっている事に衝撃を受けました。これがきっかけとなり、彼女は「認知症に対する社会の考え方を変えたい」「認知症の方が安心して暮らせるまちづくりが必要だ」と痛感し「認知症について学び、安心して暮らせるまちづくりに貢献したい」という思いから認知症啓発団体「Orange Project」を同志とともに結成しました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

(団体の人数を集めるうえで、苦労した事など)

- 大学顧問を決め、団体のlineグループを作成、Facebookに活動報告、Youtubeに紹介動画を掲載するなど、SNSを活用し、団体会員を募集しています。
- サポーター養成講座など人が多く集まる際には、チラシや広報活動を行っています。



団体の主な活動内容

- ・災害時避難所での認知症の人と家族の支援（熊本地震後）
- ・主に熊本市内の若年層や多世代を対象としたVR認知症体験などを活用した認知症養成講座の企画・運営・ファシリテート（年平均5回）
- ・認知症カフェと協働した認知症啓発活動
（年12回、as a cafeでの活動は毎月第2日曜日 13:00-16:00）
- ・熊本県熊本市中央区Run伴実行委員会（年1回）
- ・熊本県世界アルツハイマーデー記念講演会実行委員（年1回）
- ・認知症の人と家族の会と協働した認知症啓発活動（年1回）
- ・Youtube、Facebook など SNS を活用し世界へ向けた認知症啓発活動（随時）



活動で工夫しているところは？

本団体が工夫していることは2点あります。

- 1点目：本団体メンバーは、医学部保健学科、看護学科、医学科、工学部、法学部、教育学部、リハビリテーション学科、情報学科など大学・専門分野の仲間を尊重し、専門の枠を超え支え合い、創造的に活動しています。
- 2点目：大学生という若い世代が認知症当事者や大学生以下の世代をつなぐ仲介役としての役割を担えるよう、団体メンバー自身も活動を通して継続して認知症ケアについて学んでいます。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

Orange Projectが大切にしていることは、地域住民の1人として認知症当事者の方、ご家族の方の声を大切にすることです。また、地域住民の皆様と「パートナー」として協働することで、特に若い世代に認知症に関する正しい理解が深まるよう活動しています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

地域のイベントや認知症サポーターやキャラバンメイトを対象とした研修に参加して認知症カフェの役割や介護する家族の思い等を伝え、当団体の運営を説明しています。



団体の概要

- ① 開始年 平成27年（2015年）
- ② 活動市町村 熊本市南区
- ③ 活動日時 原則 平日の日中
- ④ 構成人数 16人
- ⑤ 開催場所 施設、小学校体育館など

団体の特徴

熊本市立隈庄小学校のPTAサークル活動として発足。「認知症の方にやさしい町は、障がいを持った方や子どもたちにもやさしい町になる」を目標に、学校や地域の方々と協働しながら活動しているボランティア団体です。

団体結成の経緯（きっかけ）

初めは2025年問題を考え、「小学校の児童に福祉の精神を養ってほしい」と思い、PTAサークルの活動の一つとして発足しました。認知症の知識を、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方と一緒に学んで実施することで、「やさしい町づくりをめざそう」と呼びかけ、主旨に賛同したPTAの保護者が集まり結成しました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

小学校サークル活動の紹介を通して児童及び保護者に募集を行うほか、定期的にメールやチラシで募集しました。また、個人的なつながりの中での声掛けや、活動毎に募集を募り、団体の趣旨を理解してもらうことで、団体の人数を増やしています。

今回認知症のアクティブチームに設定されたことで、小学校の卒業生や保護者に継続を呼び掛け、活動を維持しています。



団体の主な活動内容

- ・認知症ジュニア・サポーター養成講座の開催
- ・区のホームページや地域の新聞を活用した認知症に関する正しい理解知識の普及・啓発
- ・すべての住民にやさしい町づくりに向けた地域交流事業の実施



活動で工夫しているところは？

- ・地域交流事業では、他の団体と一緒に題材を決めて参加し、子供たちと地域の方と楽しく交流できるように工夫しています。
- ・認知症ジュニア・サポーター養成では、関係機関に協力をお願いし、開催日までに複数回の会議を行って、分かり易い講座になるように努めています。子どもたちや保護者、地域の方々と共に認知症についての正しい知識が身に付くように努めています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

認知症を正しく理解し、接し方を覚えることで、認知症の方やすべての住民にやさしく、住みやすい町になるように心掛けています。他人事ではなく、自分の身になって考えられるように、子供達や保護者などに呼び掛けています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

- ・夏休みを利用して、認知症カフェなどに参加して、当団体の周知をしています。また、認知症ジュニア・サポーター養成講座では、保護者や地域の方と一緒に講座を受けるよう促すことで、団体の活動を説明しています。
- ・区のホームページや地域の新聞で、活動内容をアピールしています。

団体の概要

- ① 開始年 平成30年（2018年）
- ② 活動市町村 熊本市
- ③ 活動日時 随時
- ④ 構成人数 25人
- ⑤ 開催場所 熊本市南区

団体の特徴

「みんなが暮らしやすいまちづくり」を目指して、認知症についての啓発活動を行う団体です。構成メンバーは、認知症キャラバンメント・ケアマネジャー・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・理学療法士・作業療法士・看護師・福祉用具専門員等による専門職のチームです。

団体結成の経緯（きっかけ）

平成26年度から平成28年度にかけて、「みんなが暮らしやすいまちづくり」を目指し、地域住民向けに認知症市民講座をシリーズで開催し認知症サポーターを養成しました。また、オレンジカフェを立ち上げ、そのオレンジカフェのネットワーク機能として、認知症キャラバンメイトの会を発足しました。

その専門職のネットワークを活用し、認知症サポーター養成講座等を通して、認知症に対する正しい理解や予防啓発活動を行っています。最近では特に、企業や小学生・中学生・高校生等の若年層への啓発活動に力を入れています。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

医療・福祉専門職の団体などで、日頃の業務の中で声をかけあい人数を集めました。色々な職種が集まることで、それぞれの特徴を活かした活動ができるようになりました。



団体の主な活動内容

- ・高齢者疑似体験（高齢者疑似装具体験・車いす体験・脳トレ体験等）
- ・認知症サポーター養成講座（地域住民や企業、特に、小・中・高校生などの若年層向けにも力を入れています。）
- ・認知症カフェ立ち上げ支援やお手伝い



活動で工夫しているところは？

認知症サポーター養成講座では、対象者（企業・高齢者・小学生・中学生・高校生等）にあわせて、ロールプレイや寸劇、DVD、クイズ等の様々なプログラムを組み合わせ実施しています。講座で使用する資料もメンバーで話し合いながら、対象者や希望等に合わせた形で構成するようにしています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

若年層への講座では、できるだけポイントを絞り動画やクイズ等を組み合わせ、子供さんが理解しやすいように努めています。

認知症カフェについては、地域食堂や障がい者就労支援事業所等ともコラボイベントも開催し、様々なネットワークの構築に努めています。

このような活動を行うことで、子供から高齢者・障がい者まで「みんなが暮らしやすいまちづくり」を目指しています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

地域包括支援センターの広報誌に活動を掲載したり、地域の関係機関の集まりなどで情報を発信しています。今後は団体独自の広報誌も作成し、広報していきたいです。



団体の概要

- ① 開始年 平成30年（2018年）
- ② 活動市町村 熊本市
- ③ 活動日時
 - オレンジカフェ6カ所
 - ①第3木 14時～16時 ②第2木 14時～16時
 - ③第2・4水 13時～15時 ④第3火 15時半～17時
 - ⑤第1水 13時半～15時半 ⑥毎月11日 13時半～15時半
 - 認知症介護家族の集い2ヶ所
 - ⑦第2火曜 13時半～15時半、⑧第4水曜 13時半～15時半
 - 認知症で道に迷っている方の発見・声かけ訓練 ⑨2か所
- ④ 構成人数 約40名
- ⑤ 開催場所
 - ①株式会社ヴィーヴル ②サービス付き高齢者向け住宅サンシティハウス
 - ③グループホームほがらか ④ウェルネススクエア和楽
 - ⑤田迎地域コミュニティセンター⑥⑦ささえりあ幸田事務所内
 - ⑨田迎南校区内、田迎校区内

団体の特徴

平成30年（2018年）に、認知症の方やその家族に対する支援体制を構築するために結成された、住民・事業所関係団体で構成するボランティア活動組織です。

オレンジカフェの設置事業所、認知症サポーターをカフェメイトと称したボランティアの方々、そして認知症サポーターキャラバンメイトで構成しています。

団体結成の経緯（きっかけ）

当地域包括支援センター担当圏域内では、平成27年（2016年）から認知症の方やその家族を地域で支援する拠点として、認知症介護家族の集い（ひだまり）を2カ所で月1回ずつ開催しています。また、オレンジカフェについても、平成29年（2017年）当初、2カ所でスタートし令和元年（2019年）には6カ所で開催しています。

内容は、参加者による交流だけでなく認知症に関する情報交換や認知症予防の勉強会、認知症サポーター養成講座が中心です。

団体結成は、これらの普及啓発のために、認知症サポーターの活動の場づくりについて担当圏域内のキャラバンメイトへ声をかけ、有志の方々との支援体制強化について協働したことがきっかけです。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

認知症サポーター養成講座を受けられた受講生の皆様へ、受講終了のたび、ともにオレンジサポートの活動への参加の意向をアンケートで調査し、活動に協力したいと回答された15名の方を登録しています。また、当地域包括支援センター担当圏域のキャラバンメイトにも同様に参加協力の意向を調査し、12名キャラバンメイトの協力を頂いています。



団体の主な活動内容

- ・認知症カフェの地域への啓発活動
- ・認知症サポーター養成講座の開催および支援
- ・認知症高齢者徘徊発見声かけ模擬訓練の支援



活動で工夫しているところは？

- ・認知症サポーター養成講座を定期的で開催して、サポーターを増やすための支援を続けています。
- ・オレンジカフェへのお手伝いなど、認知症サポーターが活動できる場のご紹介をおこなっています。
- ・年1回、交流会を開催し活動の状況や課題を共有する機会を持っています。
- ・認知症徘徊発見声かけ模擬訓練の開催時期を、若い世代も参加できるよう工夫しながら開催しています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

オレンジカフェへの参加者がなかなか増えない状況にありますが、参加者の人数に左右されることなく、気が向いた時やふと参加してみたくなった時に、週1回はどこかで温かく迎えてくれる場があると多くの人に知っていただけるよう、焦らず続けることに意味があると思っています。まだまだ、認知症の人やそのご家族が肩身の狭い思いをされている事実に向け、その課題解決のために何が出来るかを皆で考える場でありたいと考えています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

市政だよりや幸田公民館だよりの定期的な掲載の他に、機会あるごとに校区の広報誌への掲載や口コミおよびチラシ等を配布し一人でも多くの人へ周知を図っています。



団体の概要

- ① 開始年 平成28年（2016年）
- ② 活動市町村 熊本市
- ③ 活動日時 毎週月・金曜日 午前9時～14時
- ④ 構成人数 11名
- ⑤ 開催場所 地域密着型特別養護老人ホーム天寿園 NeO

団体の特徴

「私たち自分自身が認知症になっても、仲間がいて、楽しく集える場所があれば、幸せに生きていける」こんな想いで集まった女性有志の会です。

料理の達人、手芸の達人など、それぞれの特技を活かし、地域の高齢者の孤立化防止やフレイル予防のために役に立つ活動をしたいと願い結成されました。

団体結成の経緯（きっかけ）

熊本地震で、隣近所や地域で助け合い、励まし合うことの大切さを実感した女性有志11名で、平成28年（2016年）6月24日に結成されました。

一人ひとりのボランティアの気持ちを大きな地域力にしていきたいという輪が広がり仲間が集まりました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

地域の様々な会合の際にチラシを配りメンバーを募りました。週2回と活動頻度も多いため、一部のメンバーへの負担が集中しないような役割分担を考えることに苦慮しました。



団体の主な活動内容

- ・ふれあい昼食会
- ・いきいき百歳体操教室
- ・高齢者と子どもの世代間交流会
- ・アクティビティ（高齢者健康ヨガ・簡単絵手紙作成）
- ・認知症カフェ運営 等



活動で工夫しているところは？

ふれあい昼食会のメニューについて、出来る限り地域の地産地消に心がけています。（特に野菜を多く取り入れています。）

アクティビティは、英会話を活用した脳トレや運動機能向上のための百歳体操、日常生活で活用できる手芸などを行い、講師には地域の達人を招いて、住民や間の顔の見える関係づくり、繋がりづくりを進めています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

地域の方々が「顔見知りになる機会」を多く作ることで、日常的にお互いに声を掛け合い・支え合う関係ができるきっかけになればと考えております。そのことが認知症になっても安心して地域で生活できる現場整備になると思います。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

地域のイベントやサロン、老人会等で活動報告を行い、チラシを活用して広く地域へPRしています。特に、口コミでの効果が高く、無理なく、楽しく活動ができるグループであることを説明しています。

また、会場となっている施設に写真を掲示し、日常的な広報活動を行っています。



団体の概要

- ① 開始年 平成30年（2018年）
- ② 活動市町村 熊本市
- ③ 活動日時 毎日 午前8時30分～17時30分
- ④ 構成人数 37名
- ⑤ 開催場所 熊本市南5地域包括支援センター 交流スペース

団体の特徴

熊本市南5地域包括支援センターの活動を応援するために結成された60歳代の女性の集まりです。ボランティアグループといった組織ではなく、一人ひとりが自らの意思で、地域包括支援センターの活動のお手伝いをするために集まったメンバーです。

団体結成の経緯（きっかけ）

熊本市南5地域包括支援センターの事務所を新築するにあたり、地域交流スペースを併設しました。認知症の方やその家族が集える場が不足していたことを受け、地域の役に立ちたいという思いの方が集まり、グループの結成となりました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

顔見知りの方に口コミで声をかけ、地域包括支援センターより、地域の特性や認知症の方やその家族の方を取り巻く状況や地域で支える必要性について説明し、賛同していただける方をグループの一員として任命しています。日ごとにメンバーの人数が増えているため、連絡調整が困難になりました。（現在は地区ごとに連絡調整委員を設置しています。）



団体の主な活動内容

- ・ 認知症カフェ運営（支え・アイロードマップ作成）
- ・ 地域支え合い通所型サービスB運営（毎週金曜日）
- ・ 課題検討型地域ケア会議への参画
- ・ 地域の高齢者の総合相談支援
（地域包括オレンジアドバイザー育成） 等



活動で工夫しているところは？

グループメンバーでワークショップを行い、地域課題の掘り起こしや住民としてできることを話し合い、地域包括ケア計画の策定を行いました。認知症の早期発見の仕組みとしての仕組みづくりや見守り体制を具現化していくことで、支えアイロードマップの作成を行っています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

住民目線で、自分たちにできることは何か、5年後10年後の地域の未来を考えることにより、認知症の方だけでなく、様々な地域の方が毎日楽しく、元気に暮らすことができるような環境づくりを行うことを目標に、定期的に会合を開いています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

天明まちづくりセンター（熊本市）の広報誌に記載を掲載し、地域の全住民に活動周知を行っています。

また、グループ統一のポロシャツをつくり、イベントの際に着用しながら、グループの活動を広めています。



団体の概要

- ① 開始年 平成24年（2012年）
- ② 活動市町村 水俣市
- ③ 活動日時 随時
- ④ 構成人数 会員23名
- ⑤ 開催場所 水俣市及び出水市の福祉施設

団体の特徴

傾聴という活動を通して、話し手さんとボランティアがお互いに社会の中にいることを目的に活動しています。

団体結成の経緯（きっかけ）

認知症サポーター養成講座を受講後、「せっかく認知症について学んだのだから、何か活動ができないだろうか」と考えていました。そんなとき、水俣市が社会福祉協議会に委託し開催された”傾聴ボランティア養成講座”を受講し、ボランティア各自で施設における活動を開始しました。しかし活動を続けていく中で「こんなときどうしたらいいのだろう」「他の人はどんな活動をしているのだろう」と思うようになり、ボランティア同士の交流と情報交換、そして会員相互のサポートを目的にグループを設立しました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

水俣市から委託を受けて社会福祉協議会が実施している傾聴ボランティア養成講座の最終日に、受講終者の方にグループの説明と加入の呼びかけをしています。



団体の主な活動内容

- ・介護老人福祉施設や老人保健施設といった施設における傾聴活動
- ・オレンジカフェにおける傾聴活動
- ・他地域の掲載ボランティアとの交流
- ・傾聴グループみなまた定例会



活動で工夫しているところは？

定例会では、会員同士がお互いの近況などを知り合える場を作っています。また傾聴活動が我流になりすぎないように、傾聴の原点を振り返る機会になるよう心がけています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

おしゃべりではなく”傾聴”を行っているという意識を忘れないように心掛けています。活動の際は”傾聴モード”に切り替え、話しやすい雰囲気をつくり、一つ一つの訪問を大切にしています。そして何より自分自身に無理のないペースで活動するように、会員同士で声を掛け合っています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

水俣市社会福祉協議会のホームページやケアマネージャー、施設などを通じてお知らせしています。また会員で声をかけ、水俣市主催の認知症地域支援フォーラムへも参加しています。



団体の概要

- ① 開始年 平成29年（2017年）
- ② 活動市町村 水俣市
- ③ 活動日時 月1回9か所
- ④ 構成人数 4人
- ⑤ 開催場所 水俣市内介護事業所（9施設）

団体の特徴

介護サービス提供の現場で、利用者の話を聞いて悩みや不安の解消を図ります。また、利用者の思いや要望をサービス事業者や行政機関に伝えることで、介護を受ける人が、自分らしく安心して暮らせるよう活動しています。

団体結成の経緯（きっかけ）

元々多方面でそれぞれがボランティアとしていましたが、平成28年度に水俣市の募集に応じ、平成29年度（2017年度）に介護相談員として登録されたことを契機に、本団体としての活動を始めました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

市報による募集の他、認知症サポーター養成講の受講者、以前からボランティア活動を行っていた方へ呼びかけを行いました。また、追加募集として、市民後見人等養成講座の受講者・修了者への呼びかけを行っています。



団体の主な活動内容

- ・介護サービス事業所を訪問し、利用者の話を聞く
(月1回、市内9か所)
- ・認知症地域支援フォーラムへの参加
- ・月1回の定例会、年1回の全体会開催による相談員同士の意見交換
- ・地域の見守り活動、独居高齢者宅の訪問、認知症介護者の会への参加など、個人それぞれの活動



活動で工夫しているところは？

相談員同士による意見交換の場を設けて、相談員間のネットワークを構築し、認知症に関するよりよい対応の在り方を検討するなど、チームで相談・協力しながら活動するよう努めています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

利用者の話を聞くときには、毎回初心で先入観を持たずに臨み、いつでもしっかりと話を受け止め、一つ一つの言葉に耳を傾けます。訪問を重ねて利用者・事業者との信頼関係を築き、利用者それぞれの思いや悩みを聞いて、事業者や行政に伝えています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

認知症サポーターアクティブチームとして認定されたことを機に令和元年(2019年)5月の市報「広報みなまた」裏表紙のコーナーに掲載されました。また、水俣市認知症地域支援フォーラムへに参加し、活動内容を記したポスターを作製・展示しました。



団体の概要

- ① 開始年 平成28年（2016年）
- ② 活動市町村 天草市
- ③ 活動日時 随時
- ④ 構成人数 会員182名人
- ⑤ 開催場所 不特定

団体の特徴

認知症のことを学びたい、地域に広めたいという意欲がある方が、養成講座を受講され、積極的に地域でも活動いただいている団体です。

団体結成の経緯（きっかけ）

天草市では平成28年（2016年）から脳いきいきサポーターの養成講座を開催しています。認知症についての知識や認知症予防メニューを学び、それを地域で実践していただくことを目的とした養成講座です。その中の一部で認知症サポーター養成講座を実施し、認知症サポーターとしての研修も行っています。養成講座受講後は、年3～4回、フォローアップ講座を実施し、知識の習得やサポーター同士の情報交換など実施し、積極的に取り組まれています。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

市報に掲載するとともに、通いの場の代表者への周知を実施しました。
また、みつばちラジオ（シティFM）での啓発も実施しました。
2回目以降は、参加者の口コミで定員以上の申し込みがあります。



団体の主な活動内容

- 通いの場やサロン、老人会等で、認知症予防のメニューと一緒に実施。
- 小中学校向けの認知症サポーター養成講座におけるグループワークの補助
- 地域に活動の場がないサポーターは、地域包括支援センターが実施する啓発活動に協力
- フォローアップ講座で情報交換を実施



活動で工夫しているところは？

サポーターが地域での活動がしやすくなるように、フォローアップ講座において、サポーター同士の情報交換を実施したり、講師より認知症に関する新しい情報やメニューを教えてください。

また、認知症予防メニューのパズルやカードが必要な場合は、地域包括支援センターを拠点に貸し出しを実施しています。さらに、サポーター一人では実施が難しい場合もあるため、一つの通いの場やサロンに複数のサポーターが活動できるよう、養成講座への呼びかけをさせていただいています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

地域での活動が、参加者の負担にならないように、参加者の様子を見ながらメニューを選択したり、実施を強制しないようにしています。また、認知機能が低下してきている方への声掛けや参加している地域の皆さんが楽しく参加できるように気を付けています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

いきいき体操教室において、活動紹介を実施しています。

また、地域包括支援センターから脳いきいきサポーターがいない老人会や等に出向き、活動紹介を実施していただいています。

市のホームページには脳いきいきサポーターが活動している通いの場の一覧を掲載しています。



団体の概要

- ① 開始年 平成20年（2008年）
- ② 活動市町村 天草圏域
- ③ 活動日時 随時
- ④ 構成人数 会員125名人
- ⑤ 開催場所 不特定

団体の特徴

天草地域の住民が、住み慣れた地域で尊厳をもって暮らし続けることができるように、認知症に関する会員が主体となり、認知症サポートづくりの拠点となり活動している。

本会は、天草地域の認知症ケアに関わる保健・医療・福祉・行政等の職種、本会の目的にご賛同いただいた方の会費で運営されているボランティア団体です。

団体結成の経緯（きっかけ）

天草市全体の高齢化率が増加するという予測に伴い、認知症患者の増加が見込まれる中で、多くの方々が、住み慣れた地域で尊厳を持って暮らし続けることができるように、会員が主体となって地域住民のライフサポートづくりの拠点となり活動すること、保健・福祉・医療の連携を図り、関係機関と共に包括的且つ継続的なサポート体制を構築することを目的として会を発足しました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

当初は医療・介護・福祉・行政等の専門職のみで構成し発足しました。就業外での活動で、またボランティアということもあり、なかなか会の趣旨に賛同いただくことが難しく、地道な活動（小学校への読み聞かせ、地域のイベントでの寸劇、高齢者世帯への訪問活動、認知症の普及啓発の研修会等）で少しずつ理解を得て、現在では、会員が125名まで増えました。また、ホームページでの周知も行いました。



団体の主な活動内容

- ・ 定例会（会の運営に関する検討）の開催。
- ・ 認知症ケアの拠点の情報発信として、インターネットや機関紙、会員への情報誌の発行。
- ・ 会員の質の向上のため研修会の開催。
- ・ 地域への理解の促進、地域啓発・認知症予防のための研修会や講演会の開催。
- ・ 行政や地域関係団体の認知症に関する事業やイベントへの支援、協力。
- ・ 認知症の本人、その家族が地域とつながる場となる認知症カフェの開催。



活動で工夫しているところは？

会長・副会長・事務局・各班（研修班、寸劇班など）を選出し、組織化して会を運営しています。また定期的に運営委員会を開催し、会の活動状況について情報共有しています。

年3回の研修会を企画、開催する研修班、情報誌の発行や各イベントで広報活動する広報班、各イベントへ出張する寸劇班、個別訪問やオレンジカフェを経営する訪問班に分かれ、班長とグループメンバーが話し合いながら自主的に活動に取り組んでいます。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

多職種の会員で構成する団体であるため、垣根のない活動が展開できるように心掛けています。

また会員が自ら地域に出向き、認知症に関する普及啓発を行いながら、住み慣れた地域で尊厳を持って暮らすことができる地域づくりを目指し、活動に取り組んでいます。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

認知症に関する様々なイベントにおいて、会のPRや情報誌を配布しています。またインターネットを活用し、会の活動を定期的に更新しています。

研修会を年3回、計画しています。その中で、一般住民の方が参加できる内容の研修会を企画・開催するなど工夫しています。（認知症をテーマにしたDVD上映、認知症本人の講演など）



団体の概要

- ① 開始年 平成30年（2018年）
- ② 活動市町村 宇城市
- ③ 活動日時 第2・第4水曜日午後1時から3時
- ④ 構成人数 7人
- ⑤ 開催場所 街なか図書館濱まち・出町

団体の特徴

図書館の本や絵画、押し花等の各種展示物に囲まれ穏やかな雰囲気の中、もし自分が認知症になって一人一人が安心して生活できる地域づくりを目指し、街なか図書館のボランティアスタッフが和気あいあいと運営させていただいています。

団体結成の経緯（きっかけ）

高齢化している地域住民の多くの方が将来への不安を感じて生活してる毎日。ボランティアスタッフも地域住民の一人であります。地域住民の一人一人つながりを大切に育みいつまでも安心して生活できる地域の一員としての街なか図書館の役割をみだしたいと思いボランティアスタッフの有志の同意により開始しました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

平成28年（2016年）2月から地域に根差した「街なか図書館」をコンセプトにて民間の図書館を運営していたことから図書館の休館日を利用し、運営のボランティアスタッフの同意によりスムーズに開始することが出来ました。



団体の主な活動内容

- ・認知症カフェの定期的な開催
- ・認知症カフェの地域への啓発活動等



活動で工夫しているところは？

- ・認知症カフェの運営は、毎回自己紹介を行い地域の細かな出来事や子供のころの懐かしい思い出などを話す事で一人一人の思いでの共有を図る
- ・カフェ開催時間内で思い出の共有や漢字パズル、折り紙や簡単に出来る頭の体操や童謡歌唱を皆で歌うなど利用者のニーズに合わせたプログラム作りを行っています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

認知症の方やカフェに参加して下さる方々の思いの理解や気持ちに寄り添うような言葉かけなどにより次回もカフェに参加したいと思って頂ける様な雰囲気作りを心掛けています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

- ・毎月1回定期発行している「街なか図書館便り」にて開催日時や利用料などを知らせています。
- ・開催時前に開催日時等を知らせる案内のチラシを配布しています。
- ・認知症サポーターやキャラバンメイトを対象とした研修に参加して、認知症カフェの役割・活動内容などを伝えています。



団体の概要

- ① 開始年 平成25年（2012年）
- ② 活動市町村 菊陽町
- ③ 活動日時 毎週金曜日午前11時～午後3時
- ④ 構成人数 20人
- ⑤ 開催場所 みちくさカフェ内

団体の特徴

認知症の人と家族、地域の方、専門職、誰もが集える場所です。「認知症の人と家族の方が、気楽に訪れ、ゆっくりとくつろぐことのできるどころ、地域の方や専門職の方との交流の場」を目指して活動しています。

認知症の人が暮らしやすい地域作りのお手伝いができればと思っています。

団体結成の経緯（きっかけ）

当認知症カフェの開設者の方で認知症の義母の介護の経験があり、認知症の人と家族会のつどいなどに参加していて、認知症カフェをいつかは始めたいという思いを持っていました。そんな折、若年性認知症と診断されたばかりの奥様を介護しているという男性との出会いが平成25年（2013年）3月にありました。男性は「これから先、ふたりでどうやって生きていったらいいのか、わからない」と先の見えない介護を悲観されていました。この方のように、認知症でどう過ごしたらよいか悩んでおられる方に「ゆっくりとコーヒーを飲んでくつろいでほしい」との思いで始めました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

菊陽町や、認知症の人と家族の会の協力を得て、利用者の方が増えてきました。継続する上でボランティアの方の協力は不可欠で、菊陽町サポーター養成講座のフォローアップ研修の場面などでボランティアを募ってもらったりと、バックアップしていただいています。



団体の主な活動内容

- ・ 認知症の人と家族の集いの場、情報交換の場
- ・ 認知症の入り口にある方への介護サービスなどの紹介
- ・ 地域の方の認知症に対する理解の促進



活動で工夫しているところは？

認知症カフェはご本人と家族がともに集う場です。「ゆっくりとくつろいでいただく」ことを大切にし、他の方との交流も大切にしたいと思っています。参加者によるギターやハーモニカ演奏、時にはボランティアの方の演奏を聴いたりします。ご本人と家族の方と分かれて、家族の方には情報交換や思いを聞いてもらえる時間、ご本人にはゲームやお話など楽しんでもらう活動をしています。ご本人の活動にはボランティアの方にできるだけ多く入ってもらっています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

週1回の活動で、毎回来所される方、月に数回来られる方、いろんな方がいらっしゃいます。「みちくさカフェ」に来ることを毎週、毎月のスケジュールに入れてくださる、その思いを受け止め、「また、来ます。」と笑顔で帰宅される方へ、笑顔でお送りすることを大切にしています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

地域の夏祭りや、秋の行われる菊陽町のすぎなみフェスタなど、イベントでのリーフレット配布を行っています。また、認知症サポーター養成講座などでの認知症の方への理解を伝える中で、認知症カフェの必要性を訴えています。



団体の概要

- ① 開始年 平成19年（2007年）
- ② 活動市町村 御船町
- ③ 活動日時 各サポーターにより異なります
- ④ 構成人数 88人
- ⑤ 開催場所 各校区の公民館など

団体の特徴

介護予防教室や地域サロンなど、地域の集いの場を維持していく重要な役割を担っています。また欠席者には訪問や声かけを行うなど、見守り活動にも力を入れています。

集いの場では、認知症の方も多数おられます。認知症を正しく理解し、その人の気持ちを汲みとった接し方を心がけているために、地域の方が安心して通える場づくりができています。

サポーターみんなで地域を見守るキーパーソンとして、安心して暮らせる地域づくりをめざしています。

団体結成の経緯（きっかけ）

介護予防・生活支援サポーターは、平成15年度（2003年度）から地域の住民主体の通いの場で地域活動をするために養成が始まっています。団体としての発足は平成19年度（2007年度）に連絡協議会として立ち上がりました。

どのようにして団体の人数を集めましたか？

（団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

毎年、介護予防・生活支援サポーター養成講座を開催しています。その周知方法は、ホームページや広報紙への掲載、民児協定例会や福祉協力員、健康づくり推進員の研修での呼びかけ、地域サロンなどに出向いてのチラシ配布などです。



団体の主な活動内容

- ・通所型の介護予防教室へのサポーターとしての協力。
- ・各地区の地域サロンの運営、支援。
- ・地域の高齢者の見守り、声かけ、訪問等



活動で工夫しているところは？

介護予防教室では、サポーターが活動しやすい曜日・時間・場所の教室で活動できるようにしています。地域サロンでは、地域の方が集いやすいように、参加者で話し合って内容を計画しています。集いの場が見守りの場ともなっています。欠席者や気になる方には訪問や声かけを行うなど、見守り活動にも力を入れています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

参加者への声掛けや気遣いはもちろんですが、サポーター同士のコミュニケーションなど良い関係で繋がっているなら、その雰囲気は集っている皆に広がり、参加者同士もお互いを気遣った接し方や話し方ができると思います。それは認知症の参加者にも集いやすい良い影響を与えていると感じています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

毎年開催している介護予防・生活支援サポーター養成講座の受講生を募集する際に、福祉に関わる団体の研修に出向いて活動内容を知らせています。また、サポーターによる口コミや評判はとても効果のある周知方法だと感じています。



団体の概要

- ① 開始年 平成27年（2015年）
- ② 活動市町村 御船町
- ③ 活動日時 毎月第2・第4水曜日 13時30分～15時30分
- ④ 構成人数 8人
- ⑤ 開催場所 御船街なかギャラリー

団体の特徴

認知症の方を抱えるご家族等が介護の合間にホッとできる場の提供を目的に住民主体の団体として活動しています。団体では、認知症の人やその家族、専門家、地域の人等が集まり、その方の居場所・相談、交流の機会となるようにオレンジカフェすまいる（認知症カフェ）を開催しています。

団体結成の経緯（きっかけ）

以前、御船町が実施していた「認知症の方を介護する家族のつどい」が移行し、御船町認知症家族の会「すまいるクラブ」という団体になりました。介護者同士の交流ができる場をつくることで、介護者の悩みや相談を聞くことで、介護者の精神的な負担の軽減を図りたいと考えていたことがきっかけでした。

どのようにして団体の人数を集めましたか？ （団体の人数を集めるうえで、苦労した事など）

地域包括支援センターと連携し、運営に関する規約や要綱を定め地域住民の理解を得て、協力者を募りました。

時には、『認知症の人と家族の会『熊本県支部』より助言をいただくこともありました。

また、社会福祉協議会の方と相談し、ボランティアとして携わって下さる介護予防・生活支援サポーターを募集しました。



団体の主な活動内容

- ・認知症カフェの主催
- ・コンサートや花見会、レクリエーション等の企画・運営
- ・関係機関との連携及び専門的な支援への繋ぎ
- ・他市町村で行われている認知症カフェとの合同交流会等



活動で工夫しているところは？

誰でも気軽に参加してもらえるように町内の御船街なかギャラリーで開催しています。

カフェの雰囲気を出すためにコーヒーや手作りのお菓子等を提供し、和やかな時間を過ごしてもらっています。

参加者で話し合い、コンサート開催や花見会、レクリエーション等のイベントを企画して楽しい時間を共有しています。

活動を行ううえで、大切にしていることは？

認知症カフェ参加している皆が発言し、発言の途中で他の人から話を遮られないようにしています。

お茶を飲みながら楽しいひと時、穏やかな時間が過ごせ、参加者がここに来てよかったと思えるようにしています。また、介護をしている家族が、自分の思いを誰かと共有できる、相談できる空間を大切にしています。誰でも気軽に参加できる環境づくりと必要な情報提供を行うことを心がけています。

団体の活動内容について地域住民等への周知方法

毎月、御船町役場から発行される『広報みふね』の中にオレンジカフェすまいる（認知症カフェ）について掲載しています。また、案内チラシを地域包括支援センターで作成し、窓口で配布を行っています。

時には、民生委員・児童委員定例会や介護事業所連絡会等でお知らせしたり、介護事業所の方々、キャラバン・メイトの方々にも周知協力をお願いをしています。参加者同士のお誘いが一番効果的であると考えます。



 熊本県

どこさ、ひこさ、くまもとさ。

くまもと

Kumamoto